

長者ヶ平官衙遺跡附東山道跡

本遺跡の一带は古くから焼米（炭化米）が採集できる場所として知られ、八幡太郎義家（源義家）の長者屋敷焼討ちの伝承が語り継がれています。

平成13年度～平成17年度にかけて栃木県教育委員会が行った発掘調査では、掘立柱建物跡、総柱式建物跡、礎石建物跡、竪穴住居跡、区画溝などの遺構が確認され、奈良時代から平安時代（約1,300年～1,100年前）に営まれた古代の役所（官衙）であることが明らかとなりました。その範囲は南北約220m、東西約350m以上で、北側の張り出し部を含めると南北は約370mとなります。

遺跡は東山道跡（古代の官道）やタツ街道（郡衙間の連絡道）に近接する交通の要衝に立地することから、古代下野国芳賀郡に所在した新田駅家、芳賀郡衙別院（出先機関）ないし、それに関連する施設の可能性が指摘されています。

このように、官衙遺跡と東山道跡及びこれらと交差する道路跡は、相互に深い関わりをもちながら遺構も良好に残っており、それぞれの構造や変遷が明らかになるなど、古代国家の交通体系や地方支配体制を具体的に示すものとして重要であることから平成21年2月12日に国史跡に指定されました。



復元された米倉（埼玉県深谷市中宿遺跡）



編集

那須烏山市教育委員会文化振興課
栃木県那須烏山市大金240番地 ☎0287-88-6224

発行 平成26年12月10日

古代下野国と東山道ルート



時代	西暦	国内の主な出来事
奈良時代	710	平城京に都を移す ※この頃、東山道の道路、タツ街道が整備される？
	724	この頃、多賀城が築かれる ※この頃、コの字配置の政庁域を持つ官衙が整備される
	741	※東大寺正倉院に「下野国那須郡熊田郷□子部男須調布一端長丈二尺 天平十三年十月」銘の調庸布が現存
	752	東大寺大仏の開眼供養
	755	※那須郡出身の農民（防人）の歌が万葉集に収録される「布多ほがみ 悪しき人なり あた病 我がするときに 防人にさす」
	771	武蔵国が東山道から東海道へ所属替えとなる
平安時代	794	平安京に都を移す
	797	坂上田村麻呂が征夷大將軍に任命される ※この頃、東山道の道路が大きく改修され、路面の幅が縮小する
	802	坂上田村麻呂が胆沢城を築城、蝦夷の大首長アテルイらが朝廷にくだる
	866	藤原良房が摂政となる、応天門の変 ※この頃、西脇殿が消失し、政庁域がL字型の建物配置となる。新たに、前殿と南門が建てられる
	894	菅原道真の建言により遣唐使が廃止される ※この頃、官衙としての機能が停止する
	935	平将門の乱（承平の乱）が起こる 藤原家による摂関政治が全盛を迎える
	1051	前九年の役がおこる
	1083	後三年の役がおこる ※源義家の長者屋敷焼討ち伝説

※は長者ヶ平官衙遺跡附東山道跡に関わる動き



那須烏山市教育委員会

とうさん どう あと 東山道跡

しょうぐんみち

地元では「將軍道」と呼ばれ、那須烏山市とさくら市の市境に沿って約6kmにわたり小道が現存しています。調査の結果、小道の下部から5～12mの幅を持ち、数度の改修跡が見られる古代の道路跡が確認されました。この道路跡は、これまでの調査から古代の国道、東山道跡と考えられます。

古代の道路は、情報伝達や物資の輸送、軍事行動が速やかに行えることを目的として国家の号令のもとに都と地方を結ぶ七つの幹線道路が造られました。東山道跡はその一つで、都と東北地方を結ぶ幹線道路として非常に重要なものでした。



東山道跡緩斜面の調査(南西から)



東山道跡全景(南西から)

タツ街道

遺跡の西側を通り、北側で東山道跡と接続する道路です。調査により古代の東山道跡と同時期に使用されていたことがわかりました。また、道路幅が最大9m以上あった広い道路であることもわかりました。芳賀郡と塩屋郡とを結ぶ連絡道の可能性が考えられています。



タツ街道断面(南東から)

しょう そう 正 倉

政庁西側には多くの倉庫(正倉)が建てられていました。倉庫群は総柱式建物から礎石建物に建替えが行われ、東西方向に建物をそろえて直列に建てられていました。また、政庁の東側にも倉庫群が立ち並んでいます。この倉庫群は、米(粳)などを保管する正倉と呼ばれ、多くが高床式の建物でした。

調査により数棟が火災で焼けたことが確認されました。出土した中には焼けた米のほか、粟や稗なども含まれており、飢饉対策用の穀物を収納していた倉庫が存在していた可能性もあります。



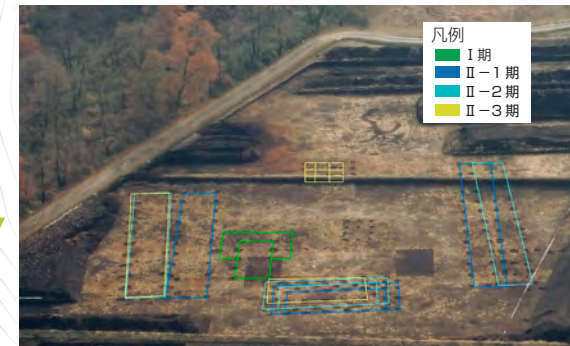
倉庫群(東から)

長者ヶ平官衙遺跡附東山道跡 (平成21年2月12日 国史跡指定)

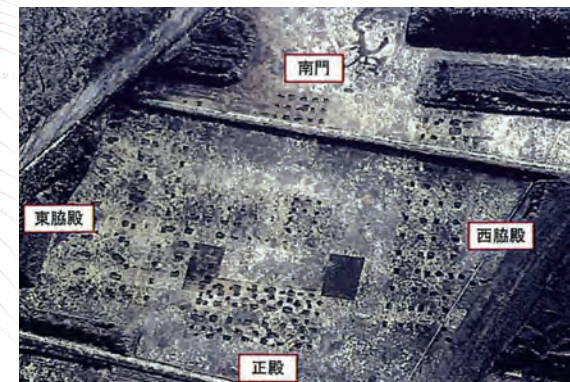
せい ちよう 政 庁

政庁は役人の執務や様々な儀式が行われた場所で、南面する正殿を中心に東西に長大な脇殿を配した「コ」の字型の建物配置が特徴です。

この建物群は大きく3時期(I期-政庁成立前、II期-政庁成立期、III期-政庁廃絶後)に分類することができます。



政庁域の変遷(北から)



政庁域(北から)



東脇殿の調査(北から)

しょう そう おお みぞ 正倉を区画した大溝

政庁西側の正倉は、幅4m、深さ1m以上の大溝で区画していることが確認できました。この大溝は政庁域を囲まず、正倉を囲むように三方(南・北・西)のみを区画しています。



南西隅の大溝(南西から)



調査状況(南から)